

学びのスタイル

FOR FREEDOM
PRACTICAL WISDOM

法政の実践知 **03**

決めることができました

自分が進みたい道を

高めることで

大学院で専門性を

デザイン工学研究科
都市環境デザイン工学専攻
2017年度修士課程修了

学部卒業生

渡部 瑠依子

大学院での研究が自分のやりたいことを知るきっかけになりました。診断士や技術士の資格取得を目指し、将来的にはドクターコースも視野に入れています。

私がコンクリートに興味を持ち始めたのは溝渕利明教授の授業がきっかけです。学部生の時には、コンクリート材料学の基礎知識の習得から、現場環境下に合わせた配合設計を行いました。溝渕教授が講義中に話していた「コンクリートは生きているんだ。」という言葉は大変印象的です。大学院では、コンクリートの維持管理に興味をもち研究に取り組んでいます。コンクリートが生きているからこそ、耐久診断を繰り返すことで、事前に劣化を把握し対策や措置をとる必要があるということに気づき、今ではコンクリートのお医者さん、という気持ちで研究をしています。大学院での生活は、興味のある分野に没頭し、見聞を広げることができる期間でもあります。学会に参加することで積極性を養い、後輩の指導では、協調性やリーダーシップ力も学びました。多くの人と出会うことで、自身の成長を実感できます。何よりも、私は大学院に進学したことで、コンクリートの維持管理の大切さに気づき、今後何十年と携わりたいテーマに出会うことができました。ただ就職をするのではなく、自分が本当に進みたい道を知るためにも大学院でより深く研究することは、一つの方法だと思います。

履修モデル <昼間開講>

	1年次	2年次
月	春学期 都市環境デザイン工学基礎2 秋学期 流水域マネジメント	
火	春学期 ライフサイクルマネジメント 夏学期 空間情報デザイン 秋学期 ライフサイクルマネジメント	構造解析と設計
水	春学期 水環境の保全 秋学期 自然・環境デザイン	
木	春学期 景観デザイン概論 都市環境デザイン工学基礎2 水循環システム概論 秋学期 耐久性力学	
金		
土		
通年	都市環境デザイン工学研究1-2	都市環境デザイン工学研究3-4 修士論文

履修モデル <昼夜開講>

	1年次	2年次
月	春学期 日本の思想・西欧の思想I	
火	通年 日本語論文作成実習	
水	通年 国際日本学演習「合同・英文」	国際日本学演習
木	春学期 日本語の正確I	
金	通年 日本中世芸典研究	
土	春学期 文芸と視覚芸術A 通年 国際日本学合同演習	国際日本学合同演習、修士論文

幼い頃から日本文学を原文で読めるようになりたいという思いがあり、高校時代には三島由紀夫や安部公房、坂口安吾などの文学に触れ、古典まで遡って日本文学全体に関心を持つようになりました。しかし、イタリア語で翻訳されたものでは作家の作風を直接味わうことができず、それまで以上に日本語を学ぶことの重要性に気づきました。翻訳に大切な文化的背景を日本で学びたいという思いが強くなったのです。イタリアの大学では、語用論的な視点を取り入れた映像翻訳の研究をしていましたが、研究環境の充実さに魅かれ、法政大学大学院への進学を決めました。国際日本学インスティテュートでは、日本語と日本文化の相互関係を研究し知識を深めています。また、月に2回、研究内容を発表する場が設けられ、国際色豊かな学生が集まり議論しています。相手に“伝える”手法も学べるのが魅力です。将来の夢は作家になることですが、卒業後は法政大学で学んだ知識を活かせる企業で働きたいと考えています。法政大学大学院は刺激の多い環境で今まで知らなかった自分を発見することができます。

留学生

アレッサンドロ・パッサレッタ

ヴェネツィア・カ・フォスカリ大学卒業後、
法政大学大学院入学。
GIORDANO PASSARELLA S.R.L. 文化財保存修復業（営業）。

人文科学研究科
**国際日本学インスティテュート
日本文学専攻**
2017年度修士課程修了
GIORDANO PASSARELLA S.R.L.
文化財保存修復業（営業）勤務

相互関係を
研究し知識を
積んでいきたい

日本語と日本文化の

時代の最先端の研究は、
開拓であり
クリエイティブな
楽しみがある

経営学研究科

経営学専攻

博士後期課程在学中
(2016年度修士課程修了)

社会人

高野 裕郎

経営学専攻修士課程(アカウンティング・ファイナンスコース)を修了後、博士後期課程に進学し会計制度の経緯を学ぶことが、今の業務に活かしているのを実感しています。

会計学について深く学びたいと大学院を探す中で、コース制と修士論文を通じて、特定の分野を深く勉強できること、平日夜と土曜日に講義があるため職場からも通えることから法政大学大学院を選びました。入学直後に感じたのは先生と学生の距離の近さ。講義では、先生からは理論的な考え方を学ぶだけでなく、学生からの発言で異なる業界・分野からの視点を得ることもできました。修士論文の作成では、図書館等を活用して大量の文献を調べ、文章を組み立てる力を養うことができました。また、企業家史・経営組織論のような別コースの講義を履修することで視野が広がることができました。このように、「深く」、「広く」学ぶことができたことは、仕事でも活かされていると感じています。

博士後期課程に進学した現在は、戦前期における日本の会計史について研究しています。仕事がある中で研究を進めることは大変ですが、先行研究を調べる中で、新たな知識と気づきを得られるのはやはり楽しいです。

履修モデル <夜間開講(修士課程)>

	1年次	2年次
月	春学期 会計学基礎 経営学基礎 秋学期 国際会計論	
火	春学期	企業家史
水	春学期 秋学期	
木	春学期 秋学期	WS(アカウント・ファイナンス) アカウント・ファイナンス特殊研究
金	秋学期 財務戦略論	
土	春学期 ミクロ経済学A 秋学期	地域経済研究 アカウント・ファイナンス演習 経営組織論 アカウントファイナンス演習
通年	秋学期	修士論文